

旧水戸街道を歩く



本堂前にある竹内兄弟の墓碑
(左・兄康之助、右・弟初次郎)



江戸時代初期の虚無僧 (市立博物館所蔵)



野馬漕りの献酬 (徳昌寺所蔵)

水戸藩専用の本陣が置かれた町・小金宿

小金く根本内周辺

今も旧道の名残をとどめる

小金宿は松戸と比へる規模は小さかったのですが、歴史は古く水戸藩専用の本陣や小金牧を管理した野馬奉行・綿貫氏の屋敷などが置かれにぎわいを見せていました。

小金牧は東葛地方に広がる広大な原野で、千頭もの野馬が生息していました。特に小金牧の野馬は力強く、栗や粗食に耐えることから、農馬として重宝されました。野馬の数を調べる「野馬捕り」は、大がかりに行われ、多くの者が動員されたといえます。

小金宿に入るとすぐ、道沿いに古くから伝わる井戸があります。この井戸は、小金宿が一度大いに賑わった新訓から、人々が火災を防ぐため、道端に設けたものといわれています。

旧道を歩いていくと、左に一月寺が見えます。現在の一月寺は、かつての一月寺とはお寺の寺域が、江戸時代には徳川氏に知られた有名なお寺で、小金町誌にはこんな語句が残っています。「一月寺は二本の千の木の木が、ありました。この木が街道に突き出して、いたため、水戸藩の大名行列のせいにまじりました。そこを切らせよう」とのこと。寺僧に「水戸殿の御用や、口曲からぬか」と反問された。その後、水戸藩は久保平蔵の道を導くようになったといわれています。

一月寺の先には水戸藩の藩士の墓があります。

助・弟初次郎は天狗党に身を投じました。

結局、天狗党は幕府の追討軍に破れ、竹内兄弟も幕府の軍に戦死しました。東漸寺には明治四十五年に建立された、清沢栄一が揮毫(書)した竹内兄弟の墓碑があります。

三本の道標

旧水戸街道は北小金駅前交差点、右に直角に曲がります。この交差点には、かつて三本の道標が立っていました。その中の一本は「本水戸街道」と刻まれていました。ここから約四百五十メートル、アサヒサイ等、知られる本水戸街道が続いていました。参道は常盤木に参道が分断されています。参道の木の杉は、徳川光圀が寄進したものです。境内には、光圀が建立した秋山夫人(金園の伯父武田信吉の生母)の墓や日蓮宗一休の墓などがあり、小金周辺と水戸藩との密接な関係がかがやいてきます。

現在、道標は駅前再開発事業のため、一時保護されています。

交差点の右側には昭和四十八年まで八坂神社がありました。跡に、二本の道標はここに建てられました。左側のものは、右水戸道中、左なれ山と、

右側のものは、「右水戸街道」「明和五年」「大井氏建之」と刻まれていました。明和五年(二七六八)に大井氏(之)を建てた」と刻まれます。二本の道標は、現在も移転した八坂神社の境内に見ることが出来ます。石の状態や字跡から、右側にあつた方が、古いと思われる。

この後、旧水戸街道はゆるやかな坂道を下りながらイチョウ並木を抜け、根本内の三差点で国道六号線を横切り、柏へと向かって行きます。そして、奥馬場跡の台地を経て常盤への道となっていくのです。

の跡があり、当時のたすまひを見せる風情に出合えます。江戸時代から続く家で、玉屋という旅館でした。

水戸藩の本陣と東漸寺

玉屋から約五十メートル、最初の信号を過ぎたあたりには、かつて水戸藩専用の本陣が置かれ、高城の家の奥に幕屋の跡が代々残っていました。別名「小金殿」とも呼ばれたこの屋敷は、水戸藩の幕主(藩主)が江戸への往來の途中や鷹狩りに来た時利用しました。水戸藩がこの地に専用の本陣を構えたのは、江戸と小金との距離(七里二十四町、約三十七キロ)がちょうど一日の行程であったことと、近くに御膳場(幕府の御用倉庫)や御用倉庫、鷹狩りの準備をする所があったためといわれています。

次の信号近く、酒屋を右に入った所には、小金宿の本陣がありました。本陣は、大徳氏(大徳氏)に代わり、屋敷を井筒屋といいました。現在、本陣跡と記した標が立っています。

小金宿の中心にある東漸寺は、徳川家康が定めた開闢十八箇所(金門の南)のの一つで、江戸市中からも多くの人が参拝に訪れます。

幕末、小金にも藩政が及ぶようになった時がありました。幕末藩政の中心の水戸藩士たち(天狗党)が、水戸藩の本陣近くに陣を構え、江戸の動きを牽制したため、小金宿の人々は驚きました。そのうち、小金出身の竹内兄弟(康之助・初次郎)は天狗党に身を投じました。



徳川光圀が寄進した本土寺参道の並木

旧水戸街道は江戸から水戸まで距離にして二十九里十一町、約百七十に及びますが、その間には十一の宿町がありましたが、通常は二泊三日の旅でありました。旅人たちはどんな生活を送っていたのでしょうか。彼らが旅した道をたどり、わずかに残る歴史的建造物に想いを馳せ、当時の様子を感じることが出来ます。旧水戸街道を歩くことは、都会にはない特別な旅の面影を感じることが出来ます。

本陣跡の跡には、幕府が幕府資料館を設け、公開施設として、



三ヶ月 佐藤 ちゆきさん

今回旧水戸街道を歩いてみて、市(市)に任じているが、意外と知らないことが多くあり、身近な所にある道があるのに驚きました。皆さんも一歩歩いてみてはいかがでしょうか。

市内には、史跡(史跡)を巡る(巡る)というところがあり、今回は旧水戸街道を歩いて歩いてみる予定です。

